



70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番号 ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしや
<p>さびしきにやどをたちいでてながむれば さびしきにやどをたちいでてながむれば さびしきにやどをたちいでてながむれば</p>	<p>あらし吹く三室の山のもみぢ葉は あらしふくみむろのやまのもみぢばは あらしふくみむろのやまのもみぢばは</p>	<p>心にもあらでうき世にながらへば こころにもあらでうきよにながらえは こころにもあらでうきよにながらえは</p>	<p>春の夜の夢ばかりなる手枕に はるのよのゆめばかりなるたまくらに はるのよのゆめばかりなるたまくらに</p>	<p>もろともにあわれとおもえやまぎくら もろともにあわれとおもえやまぎくら もろともにあわれとおもえやまぎくら</p>	<p>恨みわび乾さぬ袖だにあるものを うらみわびほさぬそでだにあるものを うらみわびほさぬそでだにあるものを</p>	<p>朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに あさぼらけうじのかわぎりたえだえに あさぼらけうじのかわぎりたえだえに</p>	<p>今はただ思ひ絶えなむとばかりを いまはただおもいたえなるとばかりを いまはただおもいたえなるとばかりを</p>	<p>夜をこめて鶏の空音ははかるとも よをこめてとりのそらねははかるとも よをこめてとりのそらねははかるとも</p>	<p>いにしへの奈良の都の八重桜 いにしへのならのみやこのやえぎくら いにしへの奈良の都の八重桜</p>	番号	上の句	下の句	作者
<p>いづこも同じ秋の夕暮 いづこもおなじあきのゆうぐれ いづこもおなじあきのゆうぐれ</p>	<p>竜田の川の錦なりけり たつたのかわのにしきなりけり たつたのかわのにしきなりけり</p>	<p>恋しかるべき夜半の月かな こいしかるべきよわのつきかな こいしかるべきよわのつきかな</p>	<p>かひなく立たむ名こそ惜しけれ かひなくたたんなこそおしけれ かひなくたたんなこそおしけれ</p>	<p>花よりほかに知る人もなし はなよりほかにしるひともなし はなよりほかにしるひともなし</p>	<p>恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ こいにくちなんなこそおしけれ こいにくちなんなこそおしけれ</p>	<p>あらはれわたる瀬々の網代木 あらわれわたるせぜのあじろぎ あらわれわたるせぜのあじろぎ</p>	<p>人づてならでいふよしもがな ひとづてならでいうよしもがな ひとづてならでいうよしもがな</p>	<p>よにあふ坂の関はゆるさじ よにおうさかのせきはゆるさじ よにおうさかのせきはゆるさじ</p>	<p>けふ九重にほひぬるかな きょうこのえにほひぬるかな きょうこのえにほひぬるかな</p>	作者	作者	作者	作者
<p>良暹法師 りょうぜんほうし りょうぜんほうし</p>	<p>能因法師 のういんほうし のういんほうし</p>	<p>三条院 さんじょういん さんじょういん</p>	<p>周防内侍 すおうのないし すおうのないし</p>	<p>前大僧正行尊 さきのだいそうじようぎようそん さきのだいそうじようぎようそん</p>	<p>相模 さがみ さがみ</p>	<p>中納言定頼 ちゅうなごんさだより ちゅうなごんさだより</p>	<p>左京大夫道雅 さきようのだいぶみちまさ さきようのだいぶみちまさ</p>	<p>清少納言 せいしょうなごん せいしょうなごん</p>	<p>伊勢大輔 いせのたいふ いせのたいふ</p>	作者	作者	作者	作者